

# ふるさとに活力を！

- 東北ふるさとづくりパートナーズの取り組み -



2016年3月16日（水）

東北ふるさとづくりパートナーズ

佐藤柁平 鎌田憲武 行川美佳

# 本日お話しすること

---

- はじめに -

【1】自己紹介と活動を始めた経緯

【2】東北ふるさとづくりパートナーズとは  
(団体概要・問題意識・活動実績)

【3】「東北(地域)と若者の関係」の動向・活動状況


【4】今後の課題と展望

- まとめ -









## 東日本大震災が教えてくれたものとは。

- (1) 「尊さ」(“命”や“場所”、平穏な日常が実は奇跡ということ。)
- (2) 「無力」(人間や文明が大自然には太刀打ちできないこと。)
- (3) 「限界」(システムや社会・経済が課題対応できないこと。)

# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（団体概要）

目的 「東北（ふるさと＝居場所）の未来を創る」



## ミッション

「ふるさとづくり」の...

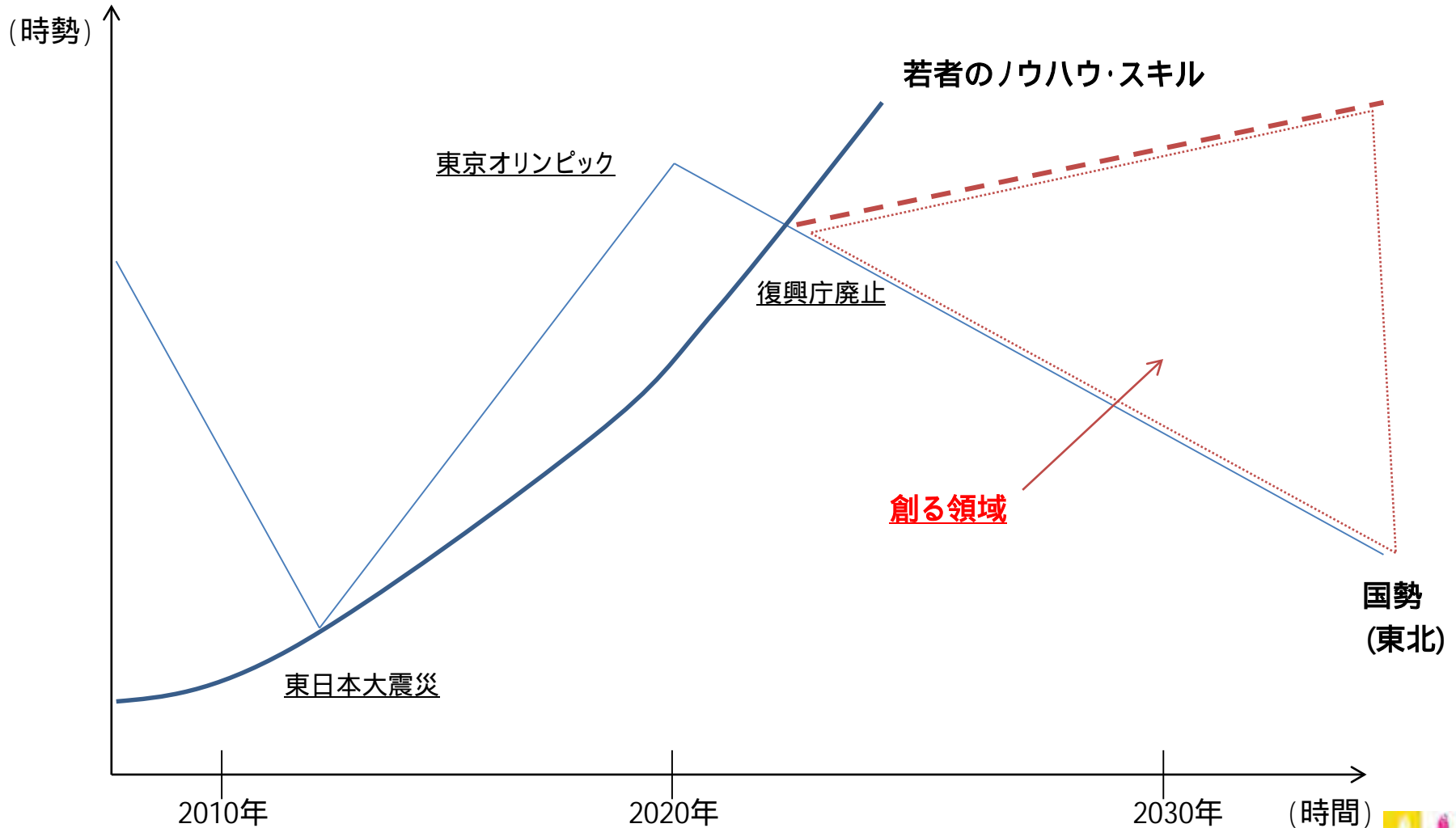
- 1．プレーヤー・人財育成
- 2．インプット・アウトプット循環づくり
- 3．社会モデル提示

## 団体概要

設 立：2014年4月1日  
形 態：任意団体  
代 表：佐藤柊平  
構 成 員：8名（東京チーム4名、東北チーム4名）  
事 業： “ふるさとづくり”人財育成事業  
          “ふるさとづくり”普及啓発事業  
事 務 所：東京都杉並区、岩手県一関市



# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（問題意識）



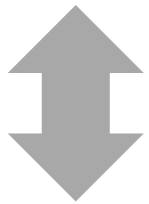
# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（問題意識）

次のステージになるテーマや動きを、東北に創らなければいけない。

- 現状（2014年春） -

固定概念：東北に関わること = 復興支援・ボランティア

矛盾：周囲の人は「復興支援」と言うが、本人の自覚意識は薄い。



**このかい離を埋めていく言葉は「ふるさとづくり」では？！**

- 実態 -

救うべき被災地

多くの人にとっての「ふるさと」

「支援者」と「被災者」

共創するパートナーへ

「復興支援」「ボランティア」

「ふるさとづくり」へ



# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（問題意識）

「ふるさとづくり」という考え方。



**【定義】** ある場所にこころを寄せることと、そこに関わることの繰り返し。





# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（問題意識）

「ふるさとづくり」は誰によって成されるか。

誰が	どこに（ある場所）	役割
地元住民	居住地	地元キーパーソン
出身者	出身地	中と外をつなぐ人
縁もゆかりもない人	好きになった場所	地域のファン・応援団

「ふるさとづくり」における地域との関わり方。

場所	内容	例
地元で	事業・プロジェクト	里山保全プロジェクト
在住地で	応援活動	首都圏で物販販売
行ったり来たり	リソース・企画調整	地域と都市の連携調整



# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（問題意識）

「ふるさとづくり」を広めるために必要な3つの要素

## 【1】共創モデルの提示

例) 「在住者×出身者×地域のファン」「自治体×住民×企業」

## 【2】地域価値の言語化・表現

例) たくさん発信される地域の情報発信を洗練させる

## 【3】接点・機会の提供

例) 関わり方を知ってもらう、気づいてもらう、実践してもらう



# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（活動実績）

## 【1】「はっぶん塾」：地元の新しい価値を創出するスクール事業

### 宮城はっぶん塾



H26・復興庁「新しい東北」先導モデル事業

### 一関×はっぶん塾



H26～27・一関市地域おこし事業

（一社）日本文化デザインフォーラム、（株）博報堂、自治体や教育機関等と連携実施。







# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（活動実績）

## 【1】「はっぶん塾」：エッセンスは“リボンフレーム”の体験・習得



普段、その地域の中には気づかない潜在的な魅力を、新しい視点で“発見”するプログラム。

“発見”した潜在的な魅力に関する情報と、自分の主観とを統合し、地域資源発信のコンセプトを作成。

コンセプト内容に基づき、地域のリソースを自分の言葉 / 方法でプレゼンテーション。



# 東北ふるさとづくりパートナーズとは（活動実績）

## 【1】「はっぶん塾」：共創モデルの提示&地域価値の言語化・表現



- ・ 在住者×出身者×地域のファン
- ・ 行政×民間企業×市民活動実践者
- ・ 学生×社会人×高齢者



- ・ 一関市の潜在価値の言語化  
「心と体の呼吸を整える場所」  
が一関が持つ地域の価値である。

宮城はっぶん塾では5つ、一関×はっぶん塾では4つの企画アイデアが生まれた。

